

第3回青森県立高等学校入学者選抜研究協議会 概要

日時：令和8年8月20日（木）

13：30～16：00

場所：新町キューブ

6F 多目的フロア

<出席者>

青森県立高等学校入学者選抜研究協議会

研究協議会委員：12名（5名欠席）

1 開会

2 連絡・報告事項

事務局から次の3点について連絡・報告をした。

- ・ 第2回研究協議会の概要
- ・ 専門委員会へ調査・検討を依頼した事項
- ・ 本日の研究協議の流れ

3 研究協議

（1）現行制度の成果と課題のまとめについて【資料2】

ア 福士専門委員会委員長から資料2の構成について説明した。

イ 事務局から資料2の概要について説明した。

【協議内容】

- ・ 部活動の地域展開が進められている状況についても、学校を取り巻く環境の変化として「現行制度をめぐる状況」に記載すべきである。
- ・ 国語の放送による検査に関する記述のうち、実施上のトラブルへの言及は、この場で議論する内容ではないため、削除する。

○ 「単なる記憶力を測るだけの出題となっている」との表現については、以下の意見を踏まえ、専門委員会において改めて整理することとした。

- ・ メモを取りながら聞く検査であることを踏まえると、言い切る表現が適切かどうか疑問である。
- ・ 単なる記憶力測定ではないという理解がある一方、相手の話を聞き取る力は面接など別の場面でも確認できるのではという意見、メモの速さ等によって差が生じる可能性があるという指摘、実施しているのは全国で2県のみであり実施における負担が大きいという実情も踏まえた検討が必要である。
- ・ 表現を和らげ、「～出題となっているとの指摘があるという」といった書きぶりに改めてはどうか。

(2) 部活動等の点数化について【資料3】

ア 福士専門委員会委員長から資料3の構成について説明した。

イ 事務局から資料3の概要について説明した。

【協議内容】

①点数化の公平性・妥当性について

- ・ 中学校における部活動の地域展開の進み具合には地域差があり、公平性の観点から現状のままの点数化には課題がある。他県のように「校内外の活動」として広く捉えて評価する方向にすべきである。高校の部活動についても、教員の働き方改革の観点から今後在り方が変わり得ることを踏まえておく必要がある。
- ・ 部活動であれ地域クラブ活動であれ、頑張っている生徒は等しく評価すべきである。点数化にあたって中体連主催以外の大会も含めて評価しており、活動の種類による大きな差は生じていないと考える。
- ・ 私立高校は特待生制度により部活動での生徒募集を積極的に行っており、県立高校が部活動の評価をやめると、部活動に対して意欲ある生徒の多くが私立高校を志望するようになるかもしれない。このことから、部活動を含めた生徒の頑張りを記載・評価する仕組みは維持すべきである。
- ・ 部活動が全くない学校がある中、そうした学校の生徒が地域クラブ活動に参加しようとしても保護者の経済的・時間的負担が大きいため、家庭の状況によっては参加できないこともあり、不公平感が生じている。また、県は今後6年程度で部活動の地域展開を進める方針であり、調査書の記載欄の在り方は検討すべきタイミングとなっている。
- ・ 高校は義務教育でないため、選抜要件に部活動等の実績を用いること自体は否定しないが、全員が参加していない活動を調査書に一律記載することの妥当性には疑問がある。部活動等の努力をアピールしたい生徒については、任意で提出する志望理由書のような書類を提出できることとし、その評価基準は高校の裁量に委ねる方法も考えられる。
- ・ 生徒を多角的に評価するため部活動等を重視しており、点数化は「総合的に判断する」という曖昧な扱いよりも明確な順位を定められる。なお、選抜委員による議論を経て点数化しているため、不透明・不公平な選抜とはなっていない。

②評価の対象・範囲について

- ・ 部活動以外にも個人で取り組んでいる活動で努力している生徒がおり、そうした個人的な活動も調査書に記載できるようになれば、努力が報われると感じる。
- ・ 保護者の立場として、評価の方法や程度が明確に示されれば、早い段階からこどもと準備ができる。日頃の努力や意欲が適切に反映される、公平で分かりやすい仕組みとしてほしい。

③調査書の記載項目について

- ・ 実際の評価は部活動に限らず、個人で取り組む活動や文化的な活動も含めて幅広く行っており、調査書の「部活動」欄という区切り方が実態に合っていない。「部活動」欄は「その他」欄と統合してはどうか。
- ・ 調査書の「部活動」欄と「その他」欄という区分は、活動が多様化した現在の実態に合っておらず、他県のように校内外の活動等として部活動を包含する表記に改めるべきである。
- ・ 調査書の「部活動」欄をなくし「その他」欄に地域クラブ等とあわせて記載する案が考えられるが、点数化されると分かれば入試直前に強豪クラブへ移る生徒が出るなどの中学校側の懸念もあり、当面は各校の裁量による評価にとどめ、様子を見ながら検討する必要がある。

○ 以上の意見を踏まえ、調査書の「部活動」欄を見直す方向で了承された。

(3) 他県の実施状況（併願制度）について【資料4】

ア 福士専門委員会委員長から資料4の構成について説明した。

イ 事務局から資料4の概要について説明した。

【協議内容】

- ・ 他県のようなコンピュータ処理によるアルゴリズムを活用した併願制度を検討する場合、下北地区のように高校数が少なく母集団が小さい地域において、アルゴリズムが機能するかは検討が必要である。一方、再募集等の負担は軽減される可能性がある。
- ・ 併願制度は本県で導入予定のWEB出願を活用した受検の在り方の一例と捉えられる。併願校を決定する際には、生徒の進路実現に向けたより深い進路指導が必要になる。

(4) 課題解決の方向性について【資料5】

福士専門委員会委員長から資料5の構成について説明した。

【協議内容】

①選抜制度について

- ・ 部活動及び地域クラブ活動の点数化は学校によって採用する競技・大会が異なり、その違いが生徒・中学校に十分周知されていない。検討にあたっては、点数化の是非にとどまらず、教科の点数と性質の異なる活動実績を合算して選抜資料とすること自体の適否についても検討してほしい。
- ・ 再募集において学力検査を実施しない方向性に賛成する。高校側の負担は大きく、全体で受検する学力検査結果を活用する等の方法が考えられる。ただし、生徒の志望動機を確認する面接は残してほしい。

②学力検査・調査書について

- ・ 調査書の「学級活動」「生徒会活動」「学校行事」「部活動」「その他」という特別活動等の記録欄全体の構成についても、部活動欄の見直しとあわせて検討してほしい。
- ・ 調査書の欠席の状況欄を選抜に用いない方向性に賛成するが、欠席の状況欄は事情により欠席が多くなった生徒を把握し、入学後に必要な支援につなげるために活用されている実態がある。宮城県のように、高校側が選抜終了まで当該欄を閲覧できない運用とする方法も参考にはできないのではないか。

③受検機会・選抜日程について

意見なし。

④その他

- ・ 第1回研究協議会で保護者から意見のあった、特色化選抜か一般選抜かの合格の区分の公表について、一度提起された論点が反映されないまま据え置かれることのないよう、公表の是非について改めて議論すべきである。
- ・ 欠席の状況欄を削除する場合でも、中学校で力を発揮できなかった生徒が、高校での意欲を自ら説明する資料として、自己申告書は残す方向でよいのではないかと。

(5) 専門委員会への調査（検討）事項について

議長から専門委員会へ以下の事項について依頼があった。

- ・ 本日協議された方向性を踏まえた、具体的な選抜制度案の作成
 - ・ 教育長へ提出する報告書の構成案の作成
- このほか、以下の事項についても、専門委員会において検討することとなった。
- ・ 部活動の地域展開が進められている状況を、現行制度をめぐる状況に加えて記載するかどうか
 - ・ 国語の放送による検査に関する記述の表現
 - ・ 部活動及び地域クラブ活動等の点数化の是非
 - ・ 調査書の欠席の状況欄及び自己申告書の取扱い
 - ・ 特色化選抜か一般選抜かの合格の区分の公表についての方向性

(6) その他

意見なし。

4 閉会